

2023年度永年勤続25年表彰について

2023年10月17日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、10月16日に、東京都立川市において、永年勤続25年の表彰式を下記のとおり開催しましたので、お知らせいたします。

記

1. 日 時 2023年10月16日（月） 11:00～11:30
2. 場 所 パレスホテル立川（東京都立川市）
3. 受賞者 6名

渡辺郁夫理事長が表彰式で受賞者に表彰状を手渡した後、永年勤続の労をねぎらうとともに、今後の活躍を期待するとのあいさつがありました。理事長のあいさつを受け、受賞者を代表して車両技術研究部 主任研究員（上級） 山下道寛が答辞を述べました。



表彰状を手渡す渡辺理事長と受け取る受賞者

【理事長あいさつ】

永年勤続25年表彰、受賞おめでとうございます。

皆さんは、この25年間鉄道総研において様々な業務に精励され、多くの成果をあげてられました。皆さんのこれまでのご尽力に心から感謝するとともに、ご活躍に敬意を表します。そして、皆さんの活動を支援してこられたご家族の方々にも感謝いたします。

皆さんが入社した平成10年は、2月に長野オリンピックが開催され、前年に開業した長野新幹線がオリンピックの観客の輸送に大活躍しました。そしてJR各社をはじめとする鉄道事業者は、新幹線や在来線の新型車両を増備し、高速化や利便性向上などの施策を打ち出すなど、鉄道が交通機関として再び輝きを取り戻していった時代でした。

それから25年が経過し、日本の鉄道を取り巻く状況は大きく変わりました。人口の減少、自然災害の激甚化、脱炭素社会に向けての対応、そして鉄道に重大なダメージと変化を与えたコロナ禍など、鉄道事業にとっては厳しい状況となり、また、解決を急がなければならない課題も多く生じています。

この状況を乗り越え、鉄道を一層輝かせるための最大のカギは「技術」にあると思います。今、私たちは、自然災害に対する強靱化を始めとする安全性の向上、デジタル技術による鉄道事業の省人化、省力化などの業務革新、脱炭素化に向けた再生可能エネルギーの活用と省エネルギー化などの研究開発に全力で取り組んでいるところであります。これらに取り組みにおいて着実にかつスピーディに成果を創出していくことが必要です。

そのためには、25年にわたり鉄道総研において力を培い、いろいろな分野で活躍してきた皆さんの力が必要です。勤続25年という節目の年を、これまでの歩みを振り返るとともに、これから新たな気持ちで再スタートする年として頂きたいと思います。鉄道の価値を向上させ、鉄道の未来を創造するために、新たなことにも果敢にチャレンジして行ってほしいと思います。また、皆さんに続く世代を育成することも重要な役割として期待しています。

その際には、常々申し上げていますが、何事も前向きに、仕事には楽しく取り組んでほしいと思います。

皆さんのこれまでのご尽力に改めて感謝するとともに、今後のさらなるご活躍、そして、ご家族を含め皆様のご健勝を祈念いたしまして私のあいさつといたします。



あいさつする渡辺理事長

【受賞者代表答辞要約】

本日は、私ども6名に永年勤続25年表彰を賜り、誠にありがとうございました。

この25年の間、鉄道総研は、革新的な技術を創出し、鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献する研究機関として技術を進歩させ、鉄道の安全性、信頼性、利便性、快適性の向上に貢献することで、その存在感を示して参りました。中でも私どもは、車両、構造物、電力、軌道の分野の研究開発に従事し、鉄道総研のプレゼンス向上に努めてまいりました。私どものしてきたことが、鉄道の安全・安定輸送や鉄道総研の運営に、いくばくかの貢献をなし得てきたのであれば、大きな喜びであり、誇りでもあります。

一方、鉄道を取り巻く環境においては、新型コロナウイルス感染症の影響による行動変容に加え、自然災害の激甚化や就労人口の減少も進んでおり、鉄道の維持発展のための具体的な取り組みが強く求められています。これらの課題解決に向けた革新的な技術の創出は、公益財団法人としての鉄道総研の責務であります。鉄道界や社会からの負託に応えるため、まず、自然災害に対する強靱化をはじめとする鉄道の更なる安全性の向上を最優先の課題としつつ、鉄道現場での労働力不足等の課題への対応として、デジタル技術を積極的に活用した鉄道システムの革新や、電力ネットワークの低炭素化にも取り組んでいきます。また、利便性を向上する技術にも取り組みます。これらの取り組みを通じて、私たちは鉄道技術の最先端を担う存在であり続けることが必要です。さらに、災害や事故の原因究明や対策提案は、鉄道全般に及ぶ深い知見を蓄積し、技術的良識に基づく中立的な活動を行う鉄道総研ならではの、重要な社会的役割です。

鉄道総研では、基本計画「RESEARCH 2025」の4年目に入り、計画の進捗を評価し、最終年度の目標達成に向け邁進する大事な時期です。私どもは、これまで積み上げてきた個々の専門性と、分野を横断した総合力を発揮し、既存の手法にとらわれることなく柔軟に業務に取り組んでゆく所存です。鉄道総研の先鋭なる技術を世界に発信できるよう、これからも精進してまいります。

本日の永年勤続25年表彰を機に、私どもに課せられた使命を今一度、肝に銘じ、鉄道総研の一層の発展と社会への貢献に向けて、今後とも業務に精励することを誓い、お礼の言葉とさせていただきます。



答辞を述べる山下道寛主任研究員（上級）